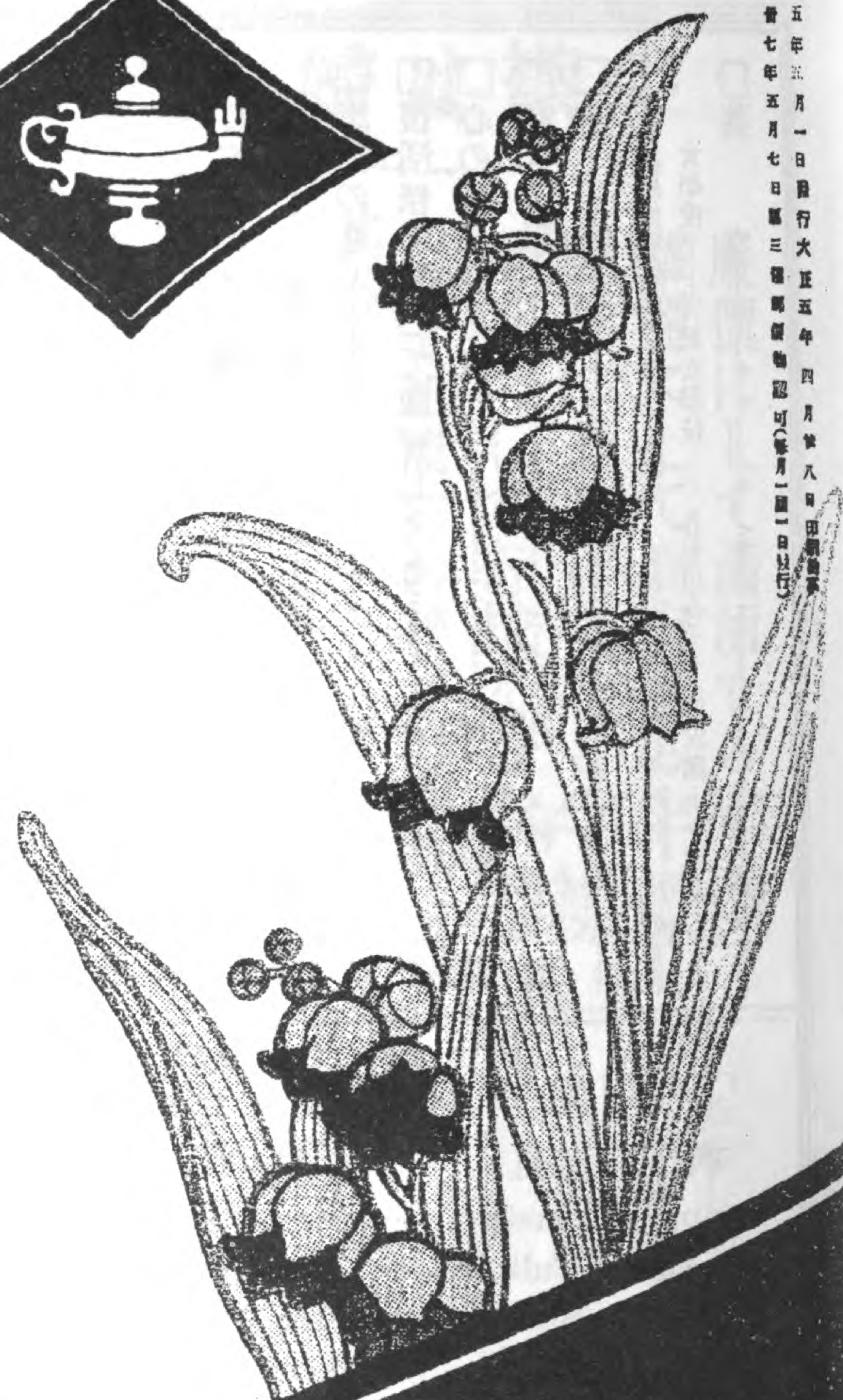
大正五年五月一日發行　大正五年四月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界



第十三巻
第五號

要目

女子青年界第十三巻第五號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII MAY, 1916 Number 5

日本基督教女子青年會支部及其他位置

東京基督教女子青年會	東京市麴町區三番町四一
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウヰルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校內
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	橫濱市山手町一七八
共立女學校青年會	橫濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麴町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麴町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ケ谷町八四
神戶女學院青年會	神戶市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市內丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリツン方
橫濱女子青年會	橫濱市本町五一
捜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
第一寄宿舍	東京市牛込區納戶町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町二六(安藤坂)
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本鄉湯島天神町一ノ二四



隣の廣告を見よ

AMERICAN BIBLE SOCIETY
TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA"

聖　書

□英語新約全書

ミニオン活字（四寸四分 二寸七分）　總金巾金拾五錢

同　　同　　紙巾皮緣金參拾錢

ミニオン（インデアペーパー刷 活字（三寸九分―二寸三分））總皮金緣金壹圓

ロング、プリマー活字（五寸七分 三寸七分）　總金巾金參拾錢

□英語舊新約全書

ミニオン活字（米國改正譯五寸―三寸四分）　總金巾金五拾錢

同（欽定譯五寸―三寸四分）　總金巾金五拾錢

ノンパレール活字引付證（縮入四寸八分―三寸三分）總皮金緣金壹圓廿五錢

□インデアペーパー刷日本語聖書

（上等紙）

インデアペーパー小形舊新約全書（地圖入五寸―三寸六分）特製一枚折皮金緣金貳圓五拾錢

インデアペーパー新約全書詩篇付（四寸二分 三寸一分）同上　金壹圓貳拾六錢

□定價表御申越次第進呈

各國語聖書發賣所

横濱市山下町五十三番

米國聖書會社

振替口座東京一八四一〇番

◎常盤唱歌集演藝集第一、第二　孰れも定價金四拾錢、郵税金六錢

◎舊約全書一年研究　定價金四拾錢　郵税金六錢

◎耶蘇一代記　定價金貳拾錢　郵税金四錢

◎聖書修身談　定價金貳拾五錢　郵税金四錢

◎日曜學校五十教課　定價金八錢　郵税金貳錢

◎文字の話　定價金拾貳錢　郵税金貳錢

◎十誡の話　定價金參拾錢　郵税金四錢

右の外日曜學校教師諸君の用ゐられて有益なる雜誌も亦生徒諸子に與ふる面白きカードなど澤山取揃へこれ有候間目錄御入用之御方へは御申越次第直に進呈致すべく候

横濱山手三十七番

常盤社

女子青年界　第十三巻第五號　（大正五年五月一日發行）

光明の甲

爾曹はみな光の子ども、晝の子ども也。

帖撒羅尼迦前書五ノ五

晝に屬ける我儕は信と愛の胸護を着、救の望を冑とし、

帖撒羅尼迦前書五ノ八

光明の甲を衣るべし。

羅馬書十三ノ十二

爾曹主イエスキリストを衣よ。

羅馬書十三ノ十四

我は我主キリスト、イエスを識るを以て最も益れる事とす。

腓立比書三ノ八

是キリストを獲、且信仰に基き神より出づる義即ち……キリストを信ずるによれる所の義を有ちてキリストの中に居らん爲なり。

腓立比書三ノ九

イエス、キリストを信ずるに由て其義を神はすべての信者に賜ふて區別なし。

羅馬書三ノ二十二

我は救の衣を着、義の外服を纒ひ。

以賽亞書六十一ノ十

主エホバの大能の事跡をたづさへ行かん、我は只爾の義のみを語らん。

詩篇七十一ノ十六

爾曹もと暗かりしが今主にあつて光れり。

以弗所書五ノ八

爾曹果を結ばざる暗行に與することなく反てこれを責むべし。

以弗所書五ノ十一

すべて責を受くべきことは光に由つて顯はる也、蓋はすべてを顯はすものは光なれば也。

以弗所書五ノ十三

寐たるものよ、目を醒し死より起よ、キリスト爾を照さん。

以弗所書五ノ十四

會說

不斷の修養

先年來集中傳道とか共同傳道とか、大なる勞力と金錢を費して大活動的の傳道が各地に於て行はれて居ますが、凡そこれに就て三つの利益を認めることが出來ます。即ち一は未信者を動かすこと、二は求道者に決心を與ふること、もう一つは眠つて居る信者を喚起することであります。しかしこれが多くは一時的であつて、一時奮起した人は多く御座いましても、時日が經過すると共に漸次其の熱心が薄らいで、結局また元の冷淡に歸つてしまふ樣な傾向が見えることは實に殘念なことであると思ひます。私の知つて居る或地方の教會では幾年前かに最寄の二教會が聯合して半ケ月程大活動を致しまして一時に五十餘の受洗者が起り、是迄教會に遠ざかつて居た信者も覺醒して教會のために働くやうになつて、其地方としては空前の大盛況を呈してまゐりましたが、其後も矢張り其の盛況を持續して居るが如何かといふと、昨今ではまた元の杢阿彌で殆ど聯合運動以前の衰態と何等の相違なき狀態に逆戻りして居るのを見るのであります。これは一方から考へると其の教會に取つても、又た其の教會を指導する責任ある牧師に取つても實に恥辱であると存じます。

斯かる有樣になるのは抑も何に原因するのであらうかと考へて見ると。往々其の信仰が感情的に馳せて信仰の基礎を鞏固にすることを考へないで、即ち

一旦奮興した信仰を引續ぎ養つて行くことに注意しない結果に外ならないと思ふので御座います。最も見易い道理から考へましても、若し人が一度に澤山の御馳走を食べたからといつて、不斷の食事を怠りますならば必ず其の身體は衰弱するので御座います其の通りに一概に信仰上の大覺醒を與へられたからといつて、平生に其の信仰を養ふものを供給いたしませんならば、結局信仰の衰弱を來すの外はありません。一時に燃上つた火も油の供給が絶へれば直ぐに消えてしまひます、油の供給を忽にして火の消えることを怪しむのは愚の至であります。

私は今日の私共信者社會に於て一般に最も缺けて居ることの一は慥に此の點にあると思ひます、即ち私共が信仰上に於ける不斷の修養に勉めないといふ點にあると思ひます。私共のうちには信仰を以て私共生活上の首要部分と考へないで、僅に片手間仕事のやうに思つて居る傾向があることは、誠に憂ふべき傾向であります。されば雜用があれば、又は客來があれば、又は氣が向かなければ、禮拜にも出席せず、祈禱もせず、終始俗務俗用に追はれて過す人が多いのであります。私は豫て聖書研究が私共の間に振はないことを殘念に思つて居りますが、實は常に聖書を勉强することが即ち信仰の修養であると考へて勉める精神の缺乏して居るには更に驚入るのであります。そして偶聖書研究とか其の外修養的の會などを組織しても、最初一二回は愉快な會合を有つことが出來ても、繼續した出席者を得ることは中々困難であり、甚しきは出席者が漸次に減じて終に自然消滅に歸することも少なくないやうに見受けられます。故に假令信仰的生活を送らねばならぬと決心覺悟する場合があつても、自ら起つてこれを支持する爲に不斷から修養された基礎がありません。智識的素養が足りません。詰り、一旦は醒めても亦眠り一旦は起つても亦仆れるといふことになるのであります。

信仰は花を培養するに喩へることが出來ます。或

人は一概に澤山の肥料を施して碌々手入もせないで放任して置きましたが、一時非常な勢で成長しましたけれども、枝や葉が延過ぎたり、花が多くつき過ぎたり、油蟲がついたりして、花が咲く時には最初の勢に似ず却て見すぼらしい花になりました。今一人は時候の關係を考へ肥料を調節し朝夕面倒を見、手入を怠らずして作上げました結果は、實に立派な花を咲かせることが出來ました。此の後者の敎訓は即ち私共の信仰生活に於ても常に勤勉にして間斷なき修養によつて始めて信仰の美花を咲かせることが出來るのであることを示して居ると思ふのであります。

實に私共の信仰生活には一日半刻でも休む筈の時はありません。常に祈り常に學び、聖書により禮拜により信徒互の交により、油斷なく休なく自を敎育せねばなりません。是は學生が毎日の學課を修むる如く信仰生活の課程であります。どうぞ私共は勇氣と克已によつて、日々夜々に間斷なき修養を積んで進みたいものであります。そして一時的でなく永久的に信仰生活の基礎を鞏固にして、眞の基督者たる性格を完ふするやうに致したいもので御座います。

基督教女子青年會の活動及其機關（五）

聖書研究部委員の事

（一）目的

學生基督教女子青年會聖書研究部委員は、女子青年會の目的を果すに於て大切なる働を有す。目的とは即ち

「會員相互の間に基督敎的性格を涵養し、智識、社交、體育の發達を企り、一般青年女子の間に基督教を普及し、且彼等を導き耶蘇基督を救主として信ぜしむるにあり。」

眞の基督者とは基督に近き生活をなし、且己の生命を神前に供するものをいふ。而してキリスト

を知るの道は、基督教徒の生涯に注目し、且聖書に於けるキリストの生涯及教訓を研究するにあり。固より聖書研究は我等基督教信者の生活を啓發し豐富ならしむる上に一層必要なり。そは聖書研究を以て我等はキリストの偉大なる性格及人生に及ぼす彼の權威を學ぶと共に、キリスト自らも我等人類と同性を有し給ふ事を實感す。故に該部委員は聖書研究奬勵により會友及學友をしてキリストと密接なる關係を有せしむるの特權を有す。これ聖書研究部委員が各部委員中最も任務重く且大切なる所以なり。

該部委員の働きは困難にして興味なく、且外觀上失敗に歸す如き感あれども、委員は各級よりの信仰厚き信者たるのみならず、熱心にして忠實に努力するものたらざるべからず。

(二)職務

聖書研究に興味ある事を知らしむ、これ同部委員の任務なり。

新學年度の該部事業を計書するに先だち先づ過去の働きを論議する事肝要なり。即ち如何なる聖書の組を有せしや、出席者何名なりしや、何故一層盛なる聖書の組なかりしや、其組は出席者の要求に適合せしや、猶聖書の組は必要なるや、以前と同樣の組にて可なるや或は異なれる組を要するや、學校に於ける聖書研究は學生の全要求を充たし得るや、又諸姉は猶一層何物かを要求するや否や等に付き深く考究すべし。

聖書研究は一に智識を得ん爲の研究、二に信仰を增さんが爲の研究たらざるべからず。聖書研究に於て何等の信仰心なく、唯單に受くべき一の課業なりとして研究するのみならば實に危險にして誘惑あり多くの學校に於て堅實なる聖書研究必要なり。同部委員は果して此二項の意義を各自の生活及行動に適合せしめんが爲、獻身的精神を以て專心の研究を奬勵し教導し得るや。

恐らく各青年會は或日曜學校を委託され居るならん、或は少なくとも日曜學校に於て教ふる會員を有

するならん。其等の諸姉は如何なる準備あるや、該部の委員は其等青年會よりの日曜學校教師或は會員ならずとも他の學校教師等に對し有益なる課程及改善教授法を授けん爲に特種の組を設けらるべきなり。是即ち諸姉の中より學童に對し「もつと高聲にお歌ひなさい神様には聞えませぬぞ」等といふ教師のなき事を希望する所以なり。同部委員は教會と協力するを得、若し教會に日曜日午前聖書の組あらば學友と共に出席し他の友人をも勸誘すべし。もし斯くの如き組なくば何故に設けざるか、委員の成すべき最善事業は、女子をして教會と關係を有せしめ、規則正しく教會に出席するの習慣を持たしむるにあり。斯せば自ら前述の如き組を組織するを得べし。

此等を履行するの指導者を撰ぶに當り左の二項を採用すること肝要なり即ち(一)下級生を教ふべき上級生を選ぶ事、(二)それ等上級生を指導する教師を選ぶ事なり、第二項に於ては特に委員の爲規定の組を開き經驗を積る教師より課程を學ぶと共に諸姉にとりての難問題を解決さるべきなり。

信者及未信者を區別したる聖書の組を設けんかの問題度々起る事あり。然れどもこれを區別すべからず。唯この區別は新入學生の爲になすべし。即ち多くの新入生は基督教の如何なるかを知らざるが故、初めて學ぶ彼等に取りては特別に初等の組を設くべきなり。新學期に入りて先づその初等の組を設け新入生のみならず、聖書の組に加はらざりし舊友或一度加はれど中途にして興味を失ひし諸姉をも再び招くべし、然れども決して强制すべからず、彼等をして興味を感ぜしむるやう努力すべきなり。其組を開くに當り指導者及教師は周到なる準備を要す。出來得る限りの餘裕を有ち、先づ早くより彼等の勸誘に努むべし。

該部委員は聖書の組或は出席者等の記録を忠實に有たるゝかを注意し、必らずその記録を青年會書記に定めて報告すべし。相談及祈禱の例會を開くべし實に諸姉は熱心なる働及神に歸依するによりてのみ遂行さる責任と機會を有する者たり。「神には能はざる所なし、汝等神なくして何事をもなし能はず。」

ベタニヤのマリヤとクレネのシモン

牧師　植村正久

馬可傳十四章一節――九節。
約翰傳十九章三十八號――四十節。
馬可傳十五章二十一節。
羅馬書十六章十三節。

右に引照した數句につきてベタニヤのマリヤとクレネのシモンの事につきて少し述べたいと思ひます吾々は恰度今受難週に入つたのであります。恰度昨日の事である、エスがベタニヤのシモンと云ふ人の家に入つて饗應を受けられた、其處にマリヤが非常に高價な香油を持つて來てエスに塗つた。此話は右に擧げた聖書の句に表はれて居る通りであります。先づマリヤの爲した事につきて吾々の心に感んずる處を三つ四つ擧げて見たい。

第一に之は甚だ天眞爛熳である。實に無邪氣な單純な眞心を持つてやつた事である。第二は普通ありふれた事でなく、又あり來つた遣り口でもなく、全く創始的である。人の意外に思ふ處で、先づマリヤが始めてやつたやうな仕事である。決して他人のした事を摸倣したのではないと云ふ事である。第三は此の事が如何にも詩的である。エスはマリヤが爲した事を彼はよい事を爲したと非常に、賞讃嘆美せられた。このよいと云ふのは美しいと云ふ事である。この事は實に美しい、吾々は兎もすれば實用向の事、役に立つとか立たぬとか利害のみを專ら考へる傾向があるが確かに凡の事の内に美と云ふものがある。マリヤのなせし事は如何にも美で、此の記事を讀む時は詩か歌でも讀むやうな心地がする。第四は今迄の習慣や力を借りないで、自分一人で諸種の事を爲した事である。之につきて或人が獨逸の有名の學者

の説を擧げて面白い事を云つて居る。其說の一つは凡そ人は誰が其模倣をしても差支へのなき事、世界中の人がまねてもいゝ模範的の事をしたがいゝといふ。又或一方の說は、是は前に言つた學者よりも少し遲れて來た偉い哲學者の說であるが、人物は他人の模倣の出來ない自分ならでは爲す事の出來ぬ事を爲して居るがいゝ、其他人のやれない特殊の事を大いにやるがいゝと云つて居る。此の三つの說は誠に面白い說である。凡て物事を行ふならば他人の模範になる事をやれ、又神から選ばれた者は特別な事をやらねばならぬ。自分が最も適當して居る獨特の仕事、人の出來ない自分が命ぜられて居る事をやれ、兩者とも相俟つてよく當嵌まつた徹底した耳を傾くべき事である。此時マリヤの事を考へるのに、マリヤが自分がなさねばならぬ、自分の力一杯の身に應した事、人が行ふが行ふまいが、自分がなさねばならぬ事をうんと行つた。之れ注意すべき處であります。吾々はかうして居るが、確かに各自、例へば敎會に於ても自分が抽んでて、先頭に立ち奮つてやらねばならぬ事が與へられて居るに違いない。之を爲さねばならぬと考へるのが必要である。第五に此のナルドの油は事によると、三百圓は八百圓位の價値のものかも知れぬ。非常に高價なものであるが其れを思ひ切つてエスに塗つた。是確かに犧牲を厭はぬ獻身的の仕事である。第六は彼れはエスが死なれるので其葬式を行はねばならぬと其葬式の積りで塗つたのでいない。然しエスから云へば彼女が態々其積りで爲せし如く感ぜられた。

元來マリヤはエスには恩を感んじて居た。そして之に報いたいと、かね〲思つて居た。然るに其頃の雲行きは容易ならぬ事を示して怪しい。今度都に上られるのも容易ならぬ事がエスの身に起りさうである。よもや主が斯くの如き死を遂げられやうとは思はぬとしても、兎も角普通ならぬ事であると感じ胸一杯になつた。それで如何にかして自分の思ひを表はしたいと思つて油を塗つたのであります。エス

の胸中には實に御自分の最期は近づいて居る。寂しい物思ひに滿ちて居る時であるから、マリヤは其の積りで塗つたのでないが、エスから云へば屍に心を込めて香油を塗つたやうに思はれた。之れ無理もない事である。之れ大いに興味ある事であります。馬太傳二十五章を讀めば、人が其積りで行つたのではない事が直接エスに向けてやつた事の如くに取られる。そしてエスが如何にしても其志に御報ひになる。エスに向つて何も爲す積りで、牢屋を見舞つた譯でも人を救つた譯でもないが、豈圖らんや、エスが其を受けて居られる事が記してありますが、大變面白い事であります。マリヤは此時別にエスの葬式を行ふつもりでなせしにはあらざるも、エスの方では之をさう云ふ風に解釋し大變に喜ばれた。そして大なる慰籍を得られた。マリヤはエスの死なれない先きに、其眞心に導かれて、葬りの營みをエスのために致した。私は今日姉妹方と考へて見たいと思ひます。

此マリヤの話に似寄つた話があります。それはアリマタヤのヨセフの事で、此の人はマリヤと違つて身分もあり物事の分別もある人であるけれど、種々いばる處があつて、明かに其態度を表明しなかつたそして彼れはエスの死後になつて始めて決心がつき勇氣が出たのであります。其故奮發してエスの屍を受けて豫ねて造つてあつた墓に葬りました。又今一人ニコデモと云つて、一夜エスの許に來た事のある者はこれも出て來てエスの葬むりに與かつた。即ち沒藥と廬薈を持つて來て叮嚀に亡骸を納めた。此三人の爲した事を考へて見るに何か吾々の心に暗示を與へるものがある。マリヤは事のさうならない先きに、既にエスのために葬りをした如くに叮嚀に其志をあらはしました。自分はその積りではなかつたがエスはその樣に受けられて非常に喜び給ふた。こちらの二人は分別もある力もある男、それかエスの死後になつて始めて決心がつき、其故最後に事實に於て葬を致しました。これは或は吾々を鼓舞する處、

又いましむる處の事で、種々心の底から動かされるやうに感じます。私はこの受難週に於ていろ〳〵毎日考へて行く内に、第一にマリヤがエスにした事をよく熟考し教を受けたいと思ひます。

次はクレネのシモンの話であります。クレネと云ふ處は北アフリカの町であります。其處にユダヤ人が大勢住居して居た。其れが爲此處から踰越の節に多くのユダヤ人達がエルサレムに上つて來まして、東京で言へば大久保代々木とか云ふ風の郊外に宿をとつて居たのであります。此のシモンが今日もエルサレムの宮に參詣せんとする途中、エスが刑場に引かれて行く其行列に出會つた。エスが重い十字架を背負ふて引かれて行く其憐れな有樣、如何にも難しさうな弱つて居られる樣子を見ては、如何に荒夷のロマ人も憐れを催し、如何にかして上げたいと思つて居た矢先き、恰度田舍者が來たので無理に捕へて十字架の一方を負せた。彼れは無理に持たせられて長い方の一方を持つて行つたと傳へられて居る。多分十字架のある重い方の一方はエスの肩にあつたに違いない。乃ち彼れは强迫的に强いられて、エスと苦痛を共にした。彼れは其故エスと苦痛を共にしやうと云ふ積りで來たのではない。然るに偶然に來てエスと其苦痛を共にした。之れ實に縁であります。馬可傳によれば、マコがアレキザンドルに居りし時クレネのシモンも其二人の息子も信者となつて敎會の主なる人であつた。由つてアレキザンドルとルフの父なるクレネのシモン（路加傳十五〇二十一）と記されて居る。又ローマ書を見ればシモンの妻の母はポーロを大切にしたと記されて居る。そして其深き縁ある事が表はされて居ります。彼れは偶然エスと共に苦痛を受けるやうになり、其關係から家庭をも救はれるやうになつて來ました。

此の話も私は考へるとマリヤと大變似て居ると思ふ。大變に相違して又相似通つて居る。マリヤは圖らずもエスの葬りを行ひ、此男は圖らずエスと共に苦痛を受けた。マリヤは喜びてなし、又斯る事にな

らうとは毫も期待せずして、無意識に行ひました。これに反し他の一方のクレネのシモンは喜び進んでしたのではなく否應なしに強いて行はさせられ徵發されたのである。この相違せる處、類似せる處をよく考ふるは大いに興味ある事である。

皆樣も種々考へて面白いと御感じになるであらうが、此話しに關聯して最もよく考へられるのは歐洲の戰亂である。誰が喜んで行く人がありませう。英國では徵兵制度が中々矢釜しくなつて來て居ますそして皆採られて國のため戰場に出かける。この際戰場に於ける信仰、戰場に於てクリストを見出した人の話し、或は兵隊が塹壕に夜の間淋しく目張り番をして居る時、鬪らずもエスが共に居まし給ふを發見したと云ふやうな物語りは、英國あたりから到着する宗教的の新聞ならば、何れにも澤山記載されて居る。種々の物語りがある中に、歐洲の戰場でクレネのテモン同樣苦しみを共にせしものが、エスの慰藉、其力を經驗する。又中には眞實に獻身犧牲の意味を理解して、國のために盡し身を捨つべきを痛切に感んずる場合が澤山ある、十字架の意味が彼れらの身に鮮やかに經驗される事が多くあります、之れ決して今回の歐洲の戰に於てのみならず、吾々の身の上にも屢々ある事であります、矢張り同樣に思ひをかけない時、あゝ詰らぬ無理だと思ふ時計らずもエスと重荷を共に負ふて居る時があります。而して後から思ひ當る事がある其時既に靈魂を呼び醒されてエスに出逢つて居た間と云ふ事を屢々經驗する、から云ふ事が澤山ある。それで私はマリヤの事、ニコデの事、ヨセフ、シモンの事等を一所にして考へるのに種々の興味ある事があります。

私は今よく自分の考へを十分に述べる事の出來ない節々がある。且私が說明をしなくても、この不十分の話により、私が申し上げるよりも以上に深き興味ある事が考へられるであらうと思ひます。そして其方が爲益になるであらうと思ひます。此趣味あるいくつかの話を集めて編み合せ、之れを熟考するに

より其中より美はしい考へが與へられるならば、最も受難週に應しきものであらうと思ひます。マリヤの行つた事、思はぬ處からエスを慰め、シモンは徵發されてエスの肩を幾分か休めた、事によると吾々の生涯も同くからである、いつもさうあり度いと思ふ。吾々の仕事はなか〳〵其影響する處大きく深いものである、そしてあゝ面倒だ困つた腐れ緣だ、實に厄介だ如何にしてから不幸であらう、泣面に蜂がさすと云ふやうに感んずる時があるが、斯る時こじつけでなく眞實自分達の爲す事がエスに於て慰めを得、又エスと共に肩を休め重荷を負ふたと云ふ事が多い、表面ではさう表はれなくとも內面ではなかなかに影響を及ぼす處が廣い、このあたりをよく考へて行き度い。受難週に當り人間の生命は意味の深關係の大きなものである事を感じ、マリヤのなせし事シモンの行ひし事かゝる結果を來たして居るが、之をよく考へ味ふ時は吾々日々の生活が變化され、氣の持ち方が變り光かゞやくやうに感じられる。のみならず力が出るやうな心持ちになるのであります。之をはじめとして姉妹方信仰を養ふやう努力して頂き度いと熱望いたして居ります。

（受難週說敎大要文責在記者）

力ある福音

今井壽道

力ある福音の中心點として、ポーロが羅馬書に書いて居る事を讀むに、『我は福音を耻とせず、此福音はユダヤ人をはじめギリシャ人凡て信ずる者を救はんとの神の大能たれば也。』（一章十六節）と。姉妹方が大いに傳道の力を養い、修養なさると云ふ事は誠に結構な事でありますが、この修養なさるについ

て先づ考へて置かねばならぬ事は、私共が傳道すると云ふ場合、信者の社會、未信者の社會に如何なる使命を傳へるのであるか？　と云ふ事であります第一この問に對して、キリスト教を傳へる、福音を傳へると答へるでありませうか、この福音、基督教とは何であるか？　我々は往々これを忘れて居る事があります、貴女の基督教、福音とは何でありますか、と問はれた時、忘れない迄も誤つて居る事がある。これを間違へずに傳へるには福音を眞實に誤りなく知り、又吾々の内にこれを充たして置かねばならない。基督教の福音はポーロによれば、力の福音である。或場合に求道者の心の平安を求めるために音を聞く、又惡い人が善感化をうけたいために基督教信者の仲間入りをする。これは間違つては居ないが、根本義ではない。福音の根本は力である。この福音を自分の物とするに力となつて吸い込まねばならない。又福音を傳へる時に、集會に於ても、個人々々の場合に於ても、この福音の力をつめ込み度いと思ふのでなければならない。今日の社會、今日の家庭に於て、唱へて居る道徳等を考へて見るに、多く聖書の影響などを受けて基督教的の教へが入つて居ります。依つて普通に福音の話をして居れば、この通常の道徳とよく類似して居る、又基督教信者より聞かないでも、誰からでも聞く事が出來、却つてよく了解されると云ふ有様であります。今までは基督教信者より導かれて居た者が、今は却つて基督教信者が導かれて居ると云ふ有様で、單に道徳の理屈から云ふならば進歩して居る、家庭の事で云つて見れば、婦人雜誌、家庭雜誌、婦人修養書などゝ多くの書籍雜誌が發刊されて、其の中に各々立派な事が記載して有りますので、基督教によらずとも立派な教へが讀みをへないほど數多くあります。

然らばかゝる時基督教信者は何を供給すべきであるか？　社會家庭は何が缺乏して居るか？　力である、生命である。智力、學力、其他科學の發達によりて表はれて居る物は、力に依らないものはないが

然し社會に、家庭に、人に不足して居る物は力である。これ程種々の力があるに、何處が不充分であるか？　即ちこれを統括する力がない。今日科學の發達進步は云ふまでもなく實に著しく、爆發藥にしても二十年前とは非常な相違を呈して來た。然しこの如何に進步した、理想的に作られた爆彈も、其儘にして置く時は、其中に恐ろしい力を藏して居るが、一つの石塊とかはる處がない。然し一度この恐ろしい力を有して居る物を、或る人が身を忍ばして、疾走し來る自働車目がけて投げつける時は、この爆彈は自働車を紛碎し、其れに乘つて居た人を慘殺する併しこのダイナマイトには罪はない、此ダイナマイトを投げる方向を指す力が惡い。併し乍ら又このダイナマイトを山に持ち行き、人間の通行し難き斷岩を穿つ時は、安全なる大道が出來る。これもダイナマイトが良いのではない、これを働かし、支配する力である。今日種々の學力、智力などがあるが、これを支配する力がなければならぬ、これは物質的の力ではない、人格的の力である。ダイナマイトを投げる二つの異つた力の如く、この世界にある多くの力が、この二つの力に支配さるべきであります。

然るに今日の社會にして、又家庭にして、この力此指導力を有して居ないものがある。又この誤れる方向に導く力を有する社會を見るのであります。學問、智識、財寶等、勿論皆好いのであるが、これ等が如何なる光を放つて居るか、誘惑の光を放つては居ないか。黄金必ずしも惡くはない、學問智識必要である。多く學問をなして社會に出で、或は黄金に身を埋めて高地位を占めて居ても、これらの力を善き方向に導いて行く力は有して居ない、この世の中が進步すればするほど、入用なものは、この社會家庭を潔め、高め、人間を潔めて、高い處に目當をつけて、これら種々の力を働かし、動かして行く力であります。この力を自らに充たしめ、又世の中にあたへねばならない。エスは自らを說明して、羊牧者が『羊をして生命を得、かつ豊ならしめん爲』

來たのと同一であると云つて居る。エスの言葉は明白である。哲學や科學のやうなものでない、我が來るは動く事の出來ぬ羊の樣なものに力を與へ、生命を與へる福音であると。

英國のケンブリッヂに一人の面白い先生があつたこの學校の習慣として卒業生が、別れて學校を去る時、皆各々其寫眞を先生の處に持つて行く事になつて居た、それで每年々々多くの生徒がこの先生の家にも寫眞を贈つたが、いつもこの寫眞を二種に分類して籠に入れて置いた、そして其一方の籠を腐れ玉子と名づけた、其理由はと云ふに、この籠に入つて居る寫眞の主は皆大學を卒業して學問も其奧義を究め、學位を得て、出來上つたものであるが、丁度全く出來上つては居るが腐つて居て生命がない爲に、其の玉子は、牝鷄がかへても孵す事が出來ないと同じく、大學を卒業して、完成しては居るが、社會に出て働く事は出來ないからださうであります。今日は著しい科學の進歩により、人間でも、玉子でもこれを造る事は出來るが、其の內に生命がない爲、牝鷄がかへても孵る事が出來ない。依つて私共はこれに力を與へるべきである。エスは人間社會にこの力を與へ給ふた。私共はこの死して居る社會にあつて、福音の理屈でなく、其生命に觸れたい。自分が先づ福音の力に充實して來なければならない何故にエスは羊に生命を與へて、これを豐にせんと云はれたか、この豐と云ふ言葉の意味は、生命が滿ちて溢れ出る程になると云ふ事である。キリストは往々この靈的生命、力を水に譬へて居られる。『我を信ずる者は生命の水を飮む』又『我を信ずる者は其腹より活ける水川の如くに流れ出づべし。』と。即ちエスの人格に接するにより、自分の中に命の水が溢れて、他の人がこれによりて其渴を濕ふし、且他人にも又其水が滿ちあふれて、流れ出づるやうになり度いものである。福音はエスがなされたと同樣に、靈的の人格をもつて、他人に與へねばならぬ。私共は往々靈的を云ふ言葉をよく了解せずして濫用して

居る。
此靈的と云ふ言葉の中に三つの大切なる敎へがある。第一は、神と、神の意志、或は目的をよく理解する事である。この世の中を考へて見ても、自分の事を考へて見ても、又聖書を讀んでも、神の目的を理解する事がなければならぬ。何人でも靜かな山に遊びて、混々と流るゝ水の音、朗麗な小鳥の聲を聞いて、直ちに音樂を作り、詩を詠ずる事が出來るか？　然らず、此の詩を詠じ、音樂を作り得る人でなければならぬ。それと同様に、吾々が神と其目的を理解する事が出來て來るまでは、神の惠みが滿ちて居ても、これを悟る事は出來ない。第二に神と神の造り給ふたものを愛する事である。和歌詠みの心を持つて、森林中に入れば、其森林中の美しい音を理解する、それがため、これを愛するやうになる。そして幾度も幾度も行き度くなる。神と神の目的を知れば、其造れる者を愛するやうになるのは自然の事である。誰にも愛は始めからあるが、自分の愛する神が造り給ひしものであれば、尙一層愛するの念が強くなつて、同胞を愛するやうになる。神と神の目的を知り、神と神の造れる者を愛し、第三に神と相携へて、相同情する事になる。斯く神と相同情する間には、神と似て來る、同時に神の力を受くる事が出來る。丁度同情し合ふ友が、言は發せずとも、其間に心と心が交通する力がある。この力が、神と人間の交通の中にある。これは第一に吾々が作つてかゝらねばならぬ。第二にこの修養された身を持つて、他人に仕へる事をしなければならぬ。生命の力、生命の光、萬國民の生はこゝにある事を知らせねばならぬ。アフリカの探險家、スタンレーが云ふに、「自分がリビングストンに逢ふまでは、ロンドンに於ける最大の無神論者なりき」と。後彼れがアフリカに行かんとして、其妻との告別の際再會は期し難いであらうと云ふ危險な使命を帶びて行く時であるのに『又何處かで逢いませう』と云ふ一言であつた。此の世では出來ないかもしれぬが、他の世にて

逢ふ事が出來ると云ふ美しい言葉をもつて危險に赴むく事の出來たのは、これリビングストンにより敎へられたのである。ロンドンに於ける最大無神論者が、神を信じて其力に觸れた。リビングストンの亞弗利加の暗黑なる世界に於て働き得る力が溢れたのである。そしてスタンレーはこれに逢つてこの力を受けた。斯くの如く神の力に觸れしむるやうにするのが大切である。何故エスは生命であるか、又生の光であるかと云ふ事を理屈では說明されないが、其人格に觸れてはじめてこれを悟る事が出來る。この世の中は道具が揃つてをるが、力がない、よつてエスの力を與へ、エス其者を敎へる事が大切である。

或る熱心な青年書家が、ある時其先生を訪ねた、然るに既に其先生は他界して居られたので、其未亡人が切角であるからと云ふので其先生の書筆を持つて來て與へられた、青年はそこで其書筆をもつて書いて見たがかけなかつた。これを見て居た未亡人は先生の精神が出來るまでは、如何によい名筆をもつても矢張り書く事は出來ないと云つたさうである。今日の世の中はそれと同樣である、エスの大思想を應用して居るが、其の中にエスの精神が缺乏して居るそれで、神を知り、神の御働きを知り、神の造れる者を愛し、神と相携えて、神の力を世に傳へると云ふ事が吾々にとりて最も肝要な事である。

基督に依りて得る新しき力

横田貞治

列王紀略下六章八節より廿三節まで

此の物語は『スリヤの王がイスラエルを征めるに當り、いくら秘密に各所に軍を送つても必ず其所に防ぎがしてあつて撃退されるので、これはきつと味

方に内應者がある爲めであらうと調べて見ると、ではなくつてイスラエルの方にエリシャなる豫言者があつてスリヤの企を凡て前以て王に告げるからであると云ふ事が分つた。スリヤの王は大いに怒つてそれではと直ちに大軍を集め夜の中にエリシャの居るドタンの町を圍んだ。翌朝になつてエリシャの從者はこれを見て大いに驚きあはてゝ「どうしやう」と叫んだ、するとエリシャは落ちつき拂つて「懼るゝな我等と共に在る者は彼等と共に在る者よりも多し」と云つて更に神に向ひ「オヽ神よ、此の若者の眼を開いて我が傍の人を見せよ」と禱つた。青年の眼は直ちに開かれた。前には火の馬火の車が山に充滿してエリシャの圍りにある、これはエリシャを守る神の軍である、かくてイスラエルの軍が又勝つ事になつた」と云ふのであるが今日は此の話より少し學びたいと思ふのです。

エリシャは大軍を控へつゝどうして「懼るゝ勿れ」と云ひ得たのでせう？　敵を無視して了つて居つたのでせうか。漫然神の救を豫想して居つたのでせうか。否な〳〵エリシャが斯く自信ある言葉を發し得たのは確かに山に充ち滿ちて居る火の馬火の車が見えたからであります。

偖て次には敵と云ふ事でありますが、エリシャの敵はスリヤでありました。私共の敵は何でありませう。今朝の話にもあつた樣に「汝の隣を愛し汝を呪ふ者を愛し疾る者の爲に祈れ」といふのでありますから私共の敵が他の國他の人でない事は確であります。しかし私どもに敵のある事も確かなものです。そして此の敵のあると云ふ事は或る意味に於て結構な事なのです、戰ふ心、勝たんとする心は大切なのです必要なのです、舊約時代に於てシセラを天幕の中で殺したヤエルの稱贊されて居る事を御覽なさい今日の倫理からは不都合であつても彼の時代に於ては敵を殺す事は大道德であつたのです。斯く昔と今とに道德の標準が變つたのは何でありませう、それは敵が變遷したのであります。敵に對する觀念の變遷

に由るのであります。これをイスラエルの宗教の進歩と合せて考へて御覧なさい面白い事を發見します即ちイスラエルが未だ隣を敵として戰つて居りました間は其の宗教は實に幼いものでありました。自分の國を亡ぼすアッシリヤと戰つて居ります間は其宗教は進歩する事が出來ませんでした。しかし他國でも大國でもない萬國の爲めに苦しみ萬國の民を悔い改めしめんとした時にイスラエルの宗教は非常に高いものになりましました。此の時のイスラエルの敵は神の敵でありました。それが新約時代になると更に進歩してサタンと云ふ名を以て聖書に出て來て居る。即ち我等が主イエス、キリストと共に立たんとするのを妨げようとする力なのです。此の力此の敵が私共に迫つて來る樣子を具體的に上げて見ると三つあります。

一、は罪惡です。實に今日の社會に至らぬ隈なく擴がつて居る罪惡です。上より下まで、我々の國家に於て、社會に於て、家庭に於て、精神界に於て充ち滿ちて居る罪惡です。

二、は艱難であるます。人が生きて居る間はこれは絶えますまい。而もこれは中々の大敵であります多くの人がこれに仆れます。迫害とか劍とか云ふ大げさな形で來ない丈それ丈我々を毒する事が、ひどいので。私の知つて居る婦人で切に請はれて未信者の家庭に入つた方がありました。婦人は必ず一家を救つて信者にして見せると大した元氣でありましたけれども今日の婦人には昔の面影もありません。子供は出來る生活難は來る、聖書一つ讀む暇が無くつて全く神から離れて終つて居るのです。此所には多勢の人が居られます。大抵は學生のやうです。學生の時代は自由です。信仰とか愛とか希望とか云ふ事を、純粹に考へて喜んで居る事が出來ます。しかし他日現實の苦しみにお逢ひになる樣になると大抵は信仰から離れられる。希望を消される。アヽ果して此内幾人の人が今日の信仰を持ち續けて行かれる事でせう。しかし現實の力を無視なさいとは申しませ

ん、無視してはなりません。スリヤの王が急にエリシヤに軍を向けた様に我々の良心に急に大軍が來るかも知れません其時に劍を以て來るやうですと反つて私どもは退けて終ひますが、漸次に心を弱めてかゝりますとツイ私どもは敵を無視して居つて却て仆れて了ふものなのです。

三、は理論です理論と申しても寧ろ空理空論です此れは亦由々しき敵です。いくら理屈は要らぬと云ひ張つて居りましても耳に入つて來れば、兎角氣を取られ心を鈍らされるのです。近頃の靑年自殺者等はこの理屈に行き詰つて宇宙の中心を握り損ねた煩悶の結果であります。決して此の敵も無視する事が出來ませんのです。

エリシヤは「懼るゝ勿れ」と申ましたが、あはれ敵を無視した言ではありません。あなた方は世の中にお出になれば、いづれ種々の敵にお出逢ひになります其時に只「懼るゝ勿れ」と云つて居つては却つて危險です。必ずはつきりと認むる味方が無ければなりません。私共は實に弱いものです。

キリストの弟子は最後の晩に主と逾越の食を共にしました。あれほど愉快な事は無つたでせう。彼らは歌を謳つて橄欖山に往きました、その歌はどんなに美しかつたでせう。けれども其時イエスは曰はれました「今夜なんぢら皆われに就て礙くだらう」と長い間に礙くのではありません、今夜です。果してトマスもヨハネもペテロも礙きました。人の弱さはどうです。主に就いて迄礙くのです。私ども人生の旅に於てよく、キリストの力を弱いと感じたり。十字架の力を無視したり、十字架の救が理屈にプーアだと感じたり致します。「我に就て礙くであらう」とは全くです。ペテロなどは「皆は礙いても私は」と力んでお答したのですが主は御存じでした、そして「今夜鷄のなかざる前に三次我れを知らずと言はん」と仰せられました。主に就き從つて居つた弟子、この決心のあつた弟子でさへ礙くのです、人は弱いものです。どうすればよいのでせう。

エリシヤは申ました「懼るゝ勿れ我等と共にある者は彼らと共にある者よりも多し」と。

エリシヤは確かに火の馬火の車を見たのです。ですからエリシヤは懼るゝ勿れと云ひました。此の時のエリシヤは強かつたのです。私どもは火の馬火の車を見る事は出來ますまい。けれどももつと確かなものを見る事が出來ます三十年の間人間の形をして生き給ひし主イエス、キリストを見る事が出來ます主を見て「懼るゝ勿れ我と共なる者は彼らと共にある者よりも強し」と云ひ得るのであります。エスは十字架にかゝつたけれども弟子は昇天の主を見ました。私どもの見る主も勿論生けるキリストです。

若者は初めの間は火の馬も火の車も見えませんでした。私どもも事實の表面丈を見て居つては主を見る事はとても出來ません。主を見る事の出來ない間の私どもは弱いものです。「どうしませう」と、恐れて人にすがらなければなりません。

しかし我と伴ふべき主あれば安心です、主の罪なき生涯を御覧なさい。我らには罪があります。世には罪があります。しかし主には一點の罪がありません、罪なき主に世界の最强者であります。主は十字架に罪を購はれました。我らの罪はこれで清められました。神の前に罪の許されを乞ふペテロの祈りの事實に思ひ至る時「我らと偕なるものは彼らと共なるものよりも強し」とどんなに罪がはびこつても恐れはせぬのであります。

主は死にて蘇へられました。世の中に如何なる罪がありましても、如何なる艱難がありましても私共は主と共に甦る事が出來るのであります、主は更生の其一つであります、私共は此の事實を信じ得る事に由つて神を知得るのであります。主も「我を知る者は神を知るもの我を見る者は神を見るもの」と申して居られます。主に依つて天地の主、萬軍の主なる神を見且つ知る事が出來るのであります。宇宙の中心に手を伸して握る事が出來るのであります。又主は「我は眞なり」と云つて居られます、私共は主

を知れば宇宙の眞理も知る事が出來るのであります。私共のみでは、いと弱きもの、疲れ易きもの、舊きものでありますが、主と共にあれば、強き者、新しき力ある者となれるのであります。ポーロは主の言を聞いて世の罪と戰ふ人となりました。（羅七後半）、ポーロ程罪と戰つて苦心した人はありません。しかし其頃のポーロは未だ主を見て居なかつたのです。それでも「主イエスキリストなるが故に神に感謝す」と云つて居ります。そして遂に聖靈に依つて主を認め世の罪に勝つたのであります。ステパノは石で殺される時に聖靈に充されて天を仰ぎ神の榮光と其右に立てるイエスとを見ました、そして我が靈を納け給へと苦しみの中に喜びの聲を上げ、石打つ者の罪の爲めに祈りつゝ勝利の死に就いたのであります。ペテロは其使徒行傳に現はれたる主と共なるものと四福音書に表はれたるものとは丸で別人の樣に思はれます。三千人を救つたペテロは祭司にも驚かれて居ります。其の説く所には如何なる學問も理屈も敗けました。生ける奥義に勝つものは無かつたのであります。我らは主と共にありと認むる事に依り世の凡ゆる敵に勝つ力が得られるのであります。

エリシャの若者は懼るゝ勿れと云はれた丈では未だ不安を感じて居りました。信用あるエリシャの言であつたにも拘はらず不安でありました。何故なれば自分が確かに神軍を見ないからであります。そこでエリシャは若者の爲めに眼を開けと祈りました。自分の眼で確かに神軍を見た若者は初めて安心しました。我々の宗教に於ても立派な話を聞いた丈では仕方がありません。心の中には依然として煩悶があります。「我れ自ら主を見る」これあつて初めて心中平かになり喜びの日に接し得るのであります、私共は若者の樣に事實を確かに見なければなりません。私共は豫言者ではないけれども必ず主を知る事が出來ます。知つて力を得る事が出來ます。私は皆樣におすゝめ致します。敵を無視してはいけないが、「懼るゝ勿れ我等と共なる者は彼と共なる者よりも強し」と云ふ言葉を。

英國視察所感

大東直太郎

左は遣英赤十字救護班通譯大東直太郎氏の視察談の一節なり。

先づ皇室と人民との間柄を申しますれば、皇室は非常に平民的で我々一行は皇太后陛下に前後三回謁見を賜はつた。其謁見たるや實に簡單である。或日次の間より丈高い粗末な黑服をつけた一婦人他の一婦人と話しながら歩いて來られた。一同も何のことなく立つて居つた。すると一代表者がちよつと腰を屈めて吾々を紹介すれば、其婦人は我が一行廿六人に銘々握手された。其時初めて皇太后なる事を知つた。皇太后陛下は病室の中を普通の者のやうに歩かれ、不樣の風をして居る疾病兵等をも一々慰問され又或時は一病兵に長い間質問されて居つたこともある。かく皇室は其等の者に深い同情を寄せられるを以て、貴族凡ての人が疾病兵に對し有らゆる手段を盡して居る。殊に教會の者共は毎日訪問に來る。

臣民が皇室に對する態度は日本のそれとは形式こそ違へ英國人もそれ相當に忠義心、尊敬心を持ち"God loves the king." の精神をよく發揮して居る。多數の義勇兵を募るに於ては、實にあると有らゆる方法を講じて居る、青年男子が太鼓を叩き笛を鳴らし喇叭を吹きつゝ列をして練り歩く。白人種も黑人種も共に大道演說をして募集に勤めて居る。廣告は到る所に張出してあるが、又其廣告たるや實に氣拔な物が多い。"We want you! Join us." といつて握手をして居るのがある。又一方に軍艦一方に大砲を据えて陸海軍共に兵を要求して居るのもある。さうかと思へば又或所にこんな繪が掲げてある、七八才位の小娘が立つて側の男兒にいつて居る言葉に「ロードキッチナは二百萬の兵を募つて居るから行きなさい」と、又一少女が窓の下に立つて居る一男兒に私共は勇敢な兵士を愛します、もし貴殿達が戰場に立つならば善い娘があなたと結婚するでせう」と云つて居る。日本兵は忠義の爲なら妻子も顧みませんと

か、武士は食はねど高楊枝とか云ふが、英國は女尊男卑主義であるから、女がいへば「うんそれなら僕は行かう」といふ風である。又兵隊になる事を婦人が勸めるのは政府より金を得るからである。日本の日當僅か四五錢と違ひ、英國兵の日當は一番安くて一シリング、ちよつと五十錢である。殖民地より來る兵は四シルリング乃至五シルリングを貰つて居るこれは兵士自身に對しての給料であるが、妻子のあるものは又別に留守宅料として幾分かもらふ。故に少しも糊口の憂なく樂に暮せる。左樣な譯であるから彼等は從軍する事を恐れない。然し再び戰場に出るといふ者なく、無闇に戰を好む人はない。此頃では年齡十八才以上四十才までの獨身者、次に既婚者と、組分にして募集して居る。丁度昨年十二月二十四五日英國總督の命令が下り、恐く陸軍の爲めに働くやう勸めてある。又キングからも英國臣民に對して同じやうな命令が下つた。かくの如く此際義勇兵募集に勉めて居るのは實に氣の毒である。兵士を募集する爲に、大分徵兵制度を布く事を主張した者があつたが、議會で一議員曰く「諸君！徵兵制度を布くといふが貴族諸君も同じく從軍せねばならぬ責任をもつことを知らぬか」といつた時、他の議員連はあいた口が塞がらなかつたといふ事を聞いた。かく徵兵は下級の人が出て貴族は出るべきものとは考へて居らぬ。實に彼等は日本の昔の樣な傾がある。我々が旅館の下女下男に物を言付けると、米國ではYes といふ位であるが、英國では一々 "Yes Sir" 一 "Yes Sir." と畏まつてきく。貴族の階級の人は假令軍人でなくとも、すぐ大佐になる。然し研究がない爲大砲の取扱を知らぬ。斯く困つて居るが彼等は非戰爭を以て文明として居る故、徵兵等の制度を布かぬ。戰爭中は誠に旅行に喧ましく、旅行券なしでは外出が出來ない。或日三人連でエヂンバラを見物に行かうと思つて、朝早く出掛た。靜かな所であるから、ぶらり〱歩いて居ると、宿屋があつたので一泊したい事を告げた。すると宿賃を前拂せよと

いふ。其理由を聞けば荷物のない客は金を前に拂ふとの事。さういつて居る處へ停車場から荷物が來たので、やつと入れてくれた。又暫くすると登記所へ行けといふ。何十分の中に行かなければ罰金と聞き直ぐ登記所に行つて見た。中央の座に白髭の男が座つて居て、喧ましく尋ねたが、我々はとう／＼議論に勝つて歸へつて來た。其所で一つ彌次喜多を演じた。又困つた事は到る所電氣の玉の先が黑く塗つてあるので實に不自由であつた。僕は椅子に乘つて其インキを消したが、英國では一昨年よりも、今は一層暗い。汽車の内にでも獨逸の潜航艇が來るから窓掛を下ろすやうにとの掲示が懸つてあつて、もし下さないで居ると、皆ボーイが下しに來る。併し英國人の恐れるのも最であらう。實際ある大理石の建物は爆彈の爲に悉皆破壞されて居る。或る日本人が芝居にいつて、マントを戸口にかけて置いた處へ。彈丸が落ちて、マントは滅茶々々にされたとの話がある。それでボートマスには堅固な綱で獨船のは入れぬやうに塞いである。

英國軍人の氣質は日本軍人のとは、性質に於て違ふ故、一概には言へないが、手のない者足のない者等は Oh, Japanese Sisters ! と、それは大きな聲を出す。日本人は泣かぬといへばむつと我慢して首を振る。擔架にのせられて歸へる兵は少なく、リユウマチだから歸へつて來たと云ふ樣なのが多い。或時は鸚鵡、カナリアを入れた籠をぶら下げて歸へつて來たものがあつた。疾病兵はすぐ青い着物をきせられる。院中の食物は日本人より遙かによく、牛肉や鷄肉を食して居る。酒は飲まさぬが、水を漉して飲ませる。英國では今非常に禁酒運動をして、酒につき規則がある。午後二時より六時迄酒店では戸を閉ぢて一切賣らない。六時より十時迄又賣出すが、十時となればぴつたり戸を締めて何といつても承知せぬ。又或る一定の距離以内の人でなくば賣らない流石英國人丈あつて買ふ方でも虚を言はないで、ちやんと來た距離をいふ。キングでさへ若し必要に迫

まれば、朕の食卓に酒を置かぬとまで宣うた。
　英國人は負惜みの強い人民で、ダーダネルに於ても、ペリシャに於ても失敗したが、決して負けたと云はず、成功なる引揚げといつて居る。又彼等は自分を一番強い兵士と自惚れて、假令我々戰爭はしたくなくとも獨逸が非人道的であるから勝利を得るまでやる積りであると力んで居る。建築に於てはとても米國に及ばぬ。日進月歩は米國にあつて英國にない。實に彼等は武士的に傾き世間を知らぬ故心狹い我々は彼等の自重心を眞似てしかるべしである。我等日本人も日清日露の戰爭に勝つたと意張つて居られない。勅語の「智識を世界に求め萬機公論に決すべし」との御念を奉戴し、大いに奮發して我々平和の臣民、人類最善の指導者となるやう努めたい。

〇正課　前號誌上「中華の某友へ」中左の通り正誤す
第二節第三行「義侠の義」は「義侠の士」、第七節第四行「清深なる水を供するオアシズである如く」は「清涼なる水を供するオアシズある如く」、同第五行「少數なりとは」は「少數なりしとは」、第八節第四行「天文」は「天父」の誤、又第十節と第十一節「共に信仰を語りに初まる」との間に一行あける。

日本に於ける勞働者

ベーカー

私は今合衆國及カナダの傳導教育部運動の一機關として、シドニー・ギユーリック博士の著された"Working Women of Japan"を讀んで其の感した所を少しく述べて見たいと思ふ。
　松山の或一市に有名な基督教信者の女工宿泊所がある。其宿泊所は毎日十二時間も働き、一日中殆んど己れの時としては少しの時間もない程の餘裕のない女工等に對して、休養を與へ、且或程度の教育及道德的訓陶を施すによつて政府から褒狀と助成金を贈られた事がある。ギユリック博士の新著書"Working Women of Japan"の終の章には此の宿泊所の事が書てある。此の一節は恰も小說を讀むが如く頗る興味があり、且又日本の何千といふ女や娘が働いて居る今の恐ろしき狀態を辿る場合には、實に一種

の大なる慰籍である。其宿泊所の監督者大本氏は基督信者となりし以後、直に己の活計の爲に或工場に通勤した。彼は基督的奉仕に着眼しつゝその工場に働く女工に就て多くを研究した。彼等女工中には七八才位の少女も共に加はり、十二時間の中唯二回の交代で働き、一ケ月僅か二三度の休日を與へられるのみである。其休日すら大掃除に費やされ、殊に夜勤女工に至りては午前九時乃至十時迄も働く爲、一層困難である。彼等は大抵讀書の智識なく不潔不義の宿泊所に押詰められて居る。一般宿泊所の監督者達は單に金錢を得る事にのみ心を寄せ、晝夜敷放しの蒲團を用ひ暴飲暴食且不義が多い。然るに大本氏の宿泊所から出る女工は心身共に健全で他の女工よりも人生に對する高尚な理想を抱いて銘々己が家に歸へる者共である。

ギユリック博士は更に好果を顯はす運動、例へば政府は彼等を教育する爲如何なる方法を講じつゝあるや或は寧ろ基督教信者は彼等に對し如何なる事をなしつゝあるやの點に付き記載して居る。博士の考ふ所では具體的に現はれた基督教福音は今や日本の女工を救ふに偉大な影響を及ぼして居る。蓋し其福音は日本の思想をして個人の價値の大なる事及其生活に入るの感念を滿たしむ故であると。

併し彼の根本目的は日本に於ける婦人勞働者の實際狀態を記載するのである、それとても完全な各方面に亘る研究ではないが下の事は事實を認めて居る日本は西洋から輸入された工業的流潮に搖動しつゝある爲、これが如何に日本の古の文明を變化したるや、又特に家庭及男女に影響を及ぼしつゝあるやにつき、各方面より興味を以て研究されて居る事である。

論及された勞働者は農夫の妻、機織女、工匠及商人の妻、子守、下女、藝者及娼妓の如く家庭內に働く女達である。田畑を耕し米や野菜を作り、或は茶を摘む女は日本婦人中凡そ八分の五を占めて居る。彼等は經濟上の困難と戰ひ驚く程手荒く又長時間勞

働するが、其中にも勇氣と快活と又他國の農夫と比較しては可成の禮儀を知つて居る。然るに僅かの土地では全家族を養ふるに足らぬ故、自ら農夫の娘は何處にか生計を見出さうとして、女工或は下女等にならざるを得ないのである。文明國に於て男子は一家のパンの爲に働き、女子は其副職を委ねらる。これ日本に於ても然る所である。然るに今や新らしき機械及西洋の進歩せる工場制度の輸入盛であると共に、心的、道徳的及精神的生活に不幸の結果を齎しつゝあるは疑なき所である。其の裏面を顧みて余は此等の危險を明示し忠告する豫言者の出でん事を望む。

若し此書を讀まば我々は憐れむべき子守及下女に對し一層同情を持つ事が出來るであらう。前者はあまり年若くして重い幼兒を負ふに困難なる爲、生長を妨げられ又教育を受くる機會を失ふ。時としては小兒の泣く折には、深夜にても起きて世話をなす義務あり。其他家事の手傳をも命ぜられるのである。下女も同じく絶間なく働き、或時は充分の睡眠さへ得られないのである。諸姉！假りに自を下女の位置に置いて、その生涯を陽氣に希望に又基督教的祝福に充たしむ方法を講ずるも一の社會的善事ならん。旅館の下女の如きに至つては猶一層酷使されるのである。即ち朝は四時五時の頃から夜半或は猶遲くまでも働き、其上時としては藝者輩より實に臆面ない醜狀を見せつけられるのである。何故なれば到る所に僅に唯二三を除くの外は多くの旅館でも藝者の出入を許されて居るからである。

米人讀者をして強く感ぜしむる事は多くの女が自尊心に缺けたる點及び或階級の兩親が己れの娘を藝者に賣る事を嫌はず、娘の魂を以て遊女屋よりの金に代ふる事を恥ぢざる點である。ギユリツク博士の日本及彼國との比較は公平であり、又彼が比較をなし而して彼國人に彼等の工業上及道徳上の缺點を回想せしむる事も當然であらう。

公平な比較は下の如くである。即ち「西洋に於て

は道德的感念の輿論は惡を忌みこれを廢せんと努むるに在るが、日本に於ては大部分の人民は惡に服從するのである、言換れば西洋の基督教國に於ては如何なる女子もその恥辱、その不義を自覺せずして、かゝる生活範圍に陷るものはない、然るに多くの日本女子は彼等の運命が封ぜらるまでは、その逃れ難き結果を相當に識別するの力がない」かく道德上の差違こそあれ、個人の價値に對する基督敎の理想及神の力を經て低きより高きに導く神の福音は西洋に於ても東洋に於ても同樣である、故に當代廿世紀に於てクリスチャンの理想は至る所に要求されつゝあるのである。

乳を搾れば乾酪出て
鼻を捻れば血出て
怒をむかふれば爭鬪起る
（箴　言）

思出のまゝ

松宮生

▲雜誌『新日本』の四月號は『殘されたる婦人問題の解決』と題して、現代十一名家なるものの意見を掲載して居る。そして其の所謂『殘されたる婦人問題』は何であるかといへば公娼存否の問題である。そして所謂十一名家といふのは誰々であるかといへば、當面の問題の提唱者として矯風會の矢島女史と救世軍の山室軍平氏、同性者として鳩山春、山脇房兩女史、女子敎育家として下田次郎、宮田修兩氏、醫家として永井潜博士、政事家として尾崎法相、局外者として向軍治、松村介石、谷本富の三氏、都合十一氏である。勿論誰としても、此の十一氏の意見によつて此の問題の解決が得られやうとは思はないであらうし、また得られる筈もないのであるが、しかし雜誌『新日本』が兎もかくも婦人問題中の殘されたも

のとして公娼存否問題の解決を試みんとする意氣込を以て、所謂天下の名家の意見を求むるとならば、何故に如上十一氏に限つたか、又何故に如上十一氏の意見が此の問題の解決の鍵となる譯であるが、それ等が私共に於ては薩張り意を得ないやうに思はれる。

▲例へば救世軍や婦人矯風會の主張を聽くならば、何故に最初より公娼廢止を專門事業として組織されて此の問題に對しては全國唯一の有力團體たる廓淸會の主張を聽かなかつたのであらうか。又政治家として尾崎法相に、醫者として永井博士に質す位ならば、何故に三十年一日の如く此の問題のために奮鬪し、既に五千の會員を有する廢娼軍を率ふる島田下院議長を忘れたのであらうか。又醫學上より常に此の問題に就て特に研究せる松浦博士や櫻根博士のやうな人を列外に置いて問はなかつたのであらうか。其の他教育家としても社會學者としても、此の問題のために研究努力せる人は決して少なくはないのにそれ等をすべて除外して、此の問題には格別の蘊蓄ありとも見えぬ、言はゞ此の問題には素人筋に近いやうな所謂名家――政治家なり教育家なり醫者なり學者なりを少かならず選んだといふ事は、單に雜誌を讀む者の興味を惹かんためならば敢て吾人の關する所ではないとしても、苟も這般の問題の解決を與へんとしての試みなりとせば、其の邊に於て既に十分なる注意と愼重が缺けて居るのを遺憾に思はずには居られない。

▲何時の時代にも、何の問題にも、理想論と實際論を調和することはむづかしいことであるが、此の公娼問題に於ても亦常に然りである。即ち公娼廢止に反對する人々の唱ふる一理由は廢娼は理想としては結構であるが實際に於ては中々さう理想通りには行かないといふのである。是は餘程思慮あり智識ある議論らしく見えて素人受けのよい議論である。併し理想として結構ならば、これが實際の上に行はれなば更らに結構であらねばならぬ。さればこれが實行

難の故に打捨て置かないで、如何にもして實際の上に實現せしむるやうに努力するは、私共お互の責務ではあるまいか。空しく中々理想通りには行くものでないと漫然獨斷して、其の進路を阻害せざるまでも、冷かなる眼を以て看過するは決して社會の改善を希望するものの爲すべき筈のことではあるまいと思ふ。理想を今直に實現するは勿論むづかしい場合もあらう。けれども徒らに理想を實現するが困難なりとして、遲疑逡巡して手を出さなければ、果して何れの日にか理想を實現し得る場合があらう。

▲斯の如き思想に捕捉されて居るから、公娼廢止の如き明白なる問題の斷行さへも、終に成し能はざるに至るのである。啻にそれのみならず、凡ての問題――社會の組織の改良、國家の制度の改良、家庭の事、敎會の事、信仰の事、精神上の事、何事によらず、其の改善發達の阻害されて居るのは確にこれが其の理由の一になるを疑はない。私共は此の捕捉から脱出することが出來ないならば、凡百の改良問題を解決するは到底むづかしい事に屬する。

▲今は政治にも實業にも乃至學問にも殆ど理想はないといつて差支ない。社會國家を導いて理想に達せしめようとするのではなくて、却て理想に進まんとするものまでも阻止して、現在の不安に滿足し、或は滿足せしめんとする傾向に在る。宣なる哉『高遠の理想』の叫び未だ國民の耳底を去らざるの今日に於て大正の歷代を汚すものといふべき公娼の增設が大阪の地に行はれて、天下これを怪しむものが尠いばかりでなく、當路の人によつて却てこれが當然の處置であるが如くに强辨せらるゝことや。抑も亦これが所謂『高遠の理想』を實現したるものと見て居るのであらうか。

犧牲の精神

とくら子

神の國の國民の特質に就て考へて見ると一つの目

立つものがあります。それは即ち犧牲の精神であります。あの十餘年前の戰爭の時を回顧すると、あの時には人民はみな家を捨て身を抛つて戰場に出て、國のために生命を捨てることを辭しなかつたので御坐います。又家に殘るものは婦人でも老人でも各自活の道を立てて少しも心配のないやうにして、其の上に出征軍人のために種々の方面から色々の方法を以て力を盡したのでありました。それ處でなく萬一の事があれば大切な夫や父兄は戰死して歸つて來ない場合になつて全く一家の中心を失ふことになつても、能く其の憂にも悲しみにも打ち耐へて、國家のためと思へば何を獻げても少しも辭しないといふ覺悟があつたので御坐います。また戰爭が起るならば國家の出費は非常に嵩むのでありますから從て租稅は高くなる、のみならず戰爭のために公債が增して戰後の負擔も多くなるのでありますけれども、それ等のことも國家に對する義務として其の責任を果す決心をしたので御坐います。

かやうに國家のために誠心を以て爲すといふ事は即ち國家のために犧牲になることであります。即ちこれは憂國の至情の發達といつてよろしいので御坐います。そして斯る場合に犧牲的精神の現はれる事は單に日本のみならず、現に歐洲大戰爭に際して居る今日は英國でも佛國でも露國でも皆此の大精神が現はれて居ることは日々の新聞や雜誌に見ても明な所であります。

此の犧牲の精神は國を立つる基礎であります、國の寶であります。若し國民のうちに戰爭などの場合にも一向平氣で國家の運命がどうならうとも關係のないやうな風で居るものが多かつたならば如何でせう。また斯る場合に租稅を納むることを拒み國家の危急を度外に置くやうなことがありましたら如何でせう。斯るものは非國民であつて國民たるの資格がないは勿論、それは國家の禍であります。

神の國の事を考へて見ましても矢張りそれと同樣であります。神の國のために犧牲になるものが多い

ので御坐います。基督は即ち其の第一番で御坐いますが。其他宗教改革のためとか、慈善のためとか、人のためとか、世のためとか、すべて神の國の擴張のために犧牲になつて生命を捨てた人は數限りのない程澤山あるので御坐います。基督教が能く今日あるを得た所以のものはその幾多の犧牲になつた人々の大精神が其土臺になつて居るからで御坐います。

この精神を有つことは神の國の國民たる基督者の有すべき特別條件であります。

もとよりこれは自然の方則でありまして、萬有の化育するを考へても、社會人事の進步を見ても、何でも犧牲の精神の發現して居ないものはないのであります。此の世の名譽を得たい位地を得たい財產を得たいといふやうな俗的のことであつても猶ほ一種の犧牲的境遇を經ねば得られないのであります。況して神のため國のため基督のために犧牲となる事の必要は當然のことであります。私共にこの大精神がありませんならば假令神の教を知りこれに從ふといひましても到底神の國に屬するものとなる事は出來ないので御坐います。どうぞ私共は徒らに神の惠を受けるものとならないで、この犧牲の精神をもつて神と人との爲めに必生の努力をすることが出來るやうになりたいものと思ふので御坐います。

復活祭に際して感ぜし事

NM子

世の中には隨分神を知らず、エスの復活を疑ふ人が澤山あります、神を信ぜず、窮りなき永世を知らない人が困難に逢へば直ちに失望落膽し、一度破目に陥れば失神して己が身を亡ぼすの愚を演ずるのでありませう、私は箇樣な實例を耳に致した事が度々あります、然し神を信じ、キリストが我等の生ける救主なる事を確信致す者共にはエスの復活こそ最大の希望であり又實に悲痛者にとりての大いなる慰籍であり救拯であります、神は悲哀に沈んだ人には一

層の惠と力を與へ給ふ事を信じ以前に增した努力と勇氣を以て事に當ります故、より多き幸福を感ずるのであります。私は三月許前に兄を失ひました。一時は姉と共に一夜を泣き明した事もありましたが兄の死も亦神の御旨なる事を思ひ一種のインスピレーションに打れ堪へられない悲の一方に更に深い喜を見出しました。只今は三人の姪を預り毎日一緒に樂しく暮して居ります。そして彼等にエス樣の御話をすると皆私の膝へ上つて來て其先其先と喧しく問時には何とも申せぬ感じが致します。私は復活祭を迎へて、特にハリス監督の言葉を新に呼び起しました、曰く、『私はポーロと同じく過去の事は過去として棄て去り將來に向つて大いなる希望を抱いて居るから御覽の通り白髮の老人で今や死が私を待つて居りましても私は少しも死を怖れません却て死を悅こんで居ります、何故なれば私は直ぐパラダイスでキリストと共に居る事が出來るかと思へば樂しみです』。又先日リビングストンの傳記を讀んで左の節を讀み下した時に、私をして眞の信仰生涯にいらしめよと獨語するを禁ぜられなかつたのでございました。

『愛親するマリーの天外に去りてより十四夜は來往しぬ、肉體を去りて天父と偕にある―『今日汝は我と偕にパラダイスにあるべし』天使は彼女をアブラハムの胸に運び去りぬ、―基督と偕にあらんは遙かに他事に勝れり―余は生れてより始めて死せんことを希ひぬ』……余は屢々大陸の內部に於ける靜寂なる森林の中に眠り、復活の朝神の喇叭が余等を『光榮ある第二の存在』に呼出し給はん迄靜に眠らん事を望みたりき』。

支部及會員諸姉へ

豫て御願申上置候へ共各支部の事業集會其他狀況等續々御通信成し下され度候

會員諸姉の論文、感想、和歌、俳句等何にても御投稿を希望仕候

會員諸姉の消息住所の異動等も出來得る限りは誌上に掲げ度存候間御通知下され候樣希望仕候

編輯〆切は毎月二十日に御坐候間其の御含にて御投稿又は御通信下され度候

日本基督教女子青年會本部內

女子青年會編輯部

花の籠

心の水

小供諸君はうつくしい花が咲き、甘しい果實のなる木が、お好きのことと思ひます。神様が木に下さる三つの大切なものがあります。何でせう？ それは種と土と日光です。これは神様だけが下さる事がお出來になるので、どんな人にも造れないものです。神様丈が土をお造りになる事が出來、神様だけが種をおつくりになることが出來ます。そして日光は、皆さんが御存じのとほり、神様の天から參ります。

ところが、この三つは如何にも不思議なものですが、この三つ丈では木を靑々としげらせることは出來ないのです。も一つなければならないものがあります。皆さんあてて御覧なさい。これがなければ種があつても、土があつても、日光があつても木はしげりません、花はしぼんで了ひます。それは水なのです。

それでは、種や土や日光を下さる神様は、何故また木が枯れないやう、花がしほれないやうに、水も一緒に下さらないのでせう？ それは神様が人間にお手傳ひをさせて下さるためなのです。皆さんは、お父さまや、お母さまや、先生のお手傳が出來るとき、大變うれしくはございませんか。「そんな小さい者は役に立たないから、あつちへ行つていらつしやい」と云はれる時と、先生や、お母さまやお父さまとお仕事を一緒にさせていたゞく時と、どつちがうれしいでせう？ ところが世界や人間を造つて可愛がつて下さる神様と一緒に仕事をさせていたゞくとはもつと〳〵いい事ではないでせうか。神様は種と土とを下さりそのうへ神様はいつでも日光を送つて下さいます。ですから私達は毎日水をやることを忘れてはなりません。神様が木にいつも日光を下さるやうに、私共もいつも水をかけさへすれば、木は青々としげつて、美しい花が咲き、私共はいつも見て樂しむことができます。それに引換へて、折角神様

が毎日日光を下さいましても、私達が水をやりませんならば、種も土も日光も揃つて居ても、木もそだたず、美しい花も咲きません。たとへ木になつても枯れて了ひ、花はしほれて了ひます。折角神様がいいものを下さり、一緒に働かせて下さつても、私達がなまけて働かない時はこの通りに、木も花も死んで了ひますやうに、私達の魂も、私達が神様と御一緒に働かないと死んで了ひます。

神様は私達の魂の爲に善いものを澤山下さいました。神様は私達に救主キリストを下さいました、また教會や日曜學校や家を下さいました。けれど神様は木をそだてる時、人に水をのこしておいて下さいましたやうに、私達自分の場合にも、爲る事をのこしておいて下さいました。私達の心の水は何でせうそれはお祈りと神様の聖言です。もし此等のものを私達に入れませんならば、心の花は枯れて死んで了ひませう。

いき〲と勢よく咲いて居る花のやうな心は、いつもお祈りと聖言がゆたかで、自分も仕合せですし人をもよろこばせ、また神様の御心にもかなひます。けれど、いくら神様がいい物を澤山下さいましても、私達がお祈りや聖言をたえず持つて居りませんならば、私達の心にある神様のお庭はすつかり枯れて了ひます。

ですから私達は、美しい花や、青い葉がほしければ、いつも水を忘れてはなりません。また仕合せな樂しい心がほしいならば、いつもお祈りをすることと、聖書を讀むことを忘れてはなりません。

（ＭＭ譯）

うた

辻村靖子

春寒

きのふかも鶯なきしさゝ村に
淡雪ちりて春のかぜさむし

月前梅

中々におぼろ月夜になりてのち
うめの立枝のしろくはみえける

三月の末に伊豆の三宅島に行かむと思ひ立つことありしを天候のさだめなきころとてえ出たつまじくなりければ小田原なる人に云ひやりたる文のはしに

冬と春と行きかふころの風をいたみ
　しま行く舟のいでずなりぬる

いでゝ行けばいづこへ行くとうち問ひし
　わがな戀しもわかれきぬれば

かへし

しまつ舟いでずときゝて春の海の
　こゝろはなぎぬきみをし思へば

同行せんとせし我は後れて四月一日我が子ひとりのみ出發しければ

わだつうみの怒れる浪の穂をふみて
　ますらたけをの火のしまにいぬ

大學病院に一人をとひける夕

望みなき病み人とひてかへるさの
　ゆへべのにはに蠟梅のさく

四月八日

灌佛のみやねを葺くと桃椿
　かごにつみ入るゝうなゐごあはれ

彙報

○夏期修養會委員會

三月十八日午後三時半より日本基督敎女子青年會本部事務所に於て夏期修養會委員會を開く、出席者は小此木松子、井深花子、星野愛子、志立たき子、植村環子、加藤高子、ミス、レーガンにて、小此木姉の祈禱を以て開會す。最初にミス、レーカンよりフイッシャー氏よりの書翰朗讀ありて男子青年會には七月二十三日迄に女子青年會修養會を終了せんことを希望するが故に今夏の修養會は御殿場に開會する能はざることに決せり。星野姉より横濱フエリス女學校ブース氏より會場に就て有望なる來信ありたる旨報告あり。よつて同校舍を調査し其の上にて借入るゝや如何を決する事となしたり。引續き左の諸件を可決す。

（一）標語　馬太傳十章三十九節。

（二）聖書の組擔當敎師は先づ稻垣氏に照會依賴の事

(三)會社工場等の狀態殊に婦人に關する日本の法律につきての講演のため少なくとも二晩を婦人傳道等日本に於ての基督教事業につきて一晩を割當て他の夜集會は開會 閉 會及び一般青年會の報告、委員協議會に充當する事。

(四)修養會指導者には長谷川きた子、其交代の場合には三谷民子を依賴する事。

(五)講師及教師は各委員に於て擔任し依賴する事。

(六)今一回社會狀態に關する講演を山室軍平氏に依囑すること同氏差支あらば同氏より適當なる講演者の推薦を請ふこと。

○東京女子青年會

▲**女中慰勞會**　四月五日(水)午後七時より本館集會場に於て女中慰勞會を開きたり。九段教會牧師中川夫人の實例多き有益なる講話ありてより茶菓及び餘興に移りたり第三寄宿舍に寄宿さるゝ方々の親切なる助力に依り面白き狂言(痺)小人島踊り、新式ピヤノ獨彈、コントリン獨奏及其他の餘興ありて歡を盡し散會せり。集りたる女中方の數四十名、來客二十名餘にて頗る盛會なりし序に本會經營の女中夜學は目下火、木の七時より始め讀方、習字、作法、簡短なる裁縫等を親切に教授しつゝあり、出席者四名あり。

▲**親睦會**　四月上旬には女子英學塾、女子學院、東洋英和を今年卒業になりし諸姉妹を招待し歡迎親睦會を開き樂しき半日を過したり。

▲**支那婦人集會**　三月末日には支那女子學友會例會を本館二階應接間にて開きたり。下田次郎先生の御講話の後役員改選を行ひて親睦會に移れり。卅五名以上の出席者ありて頗る盛會なりき。當青年會は都下の支那留學生諸姉と接近親交して相互に助力したき希望を多年有し來りしが、今回本會々館を得てより漸次實際に盡す道の開かるゝ機會あるを悅びとす。

▲**最近の諸集會**　本會舘は早稻田教會婦人會、九段教會女子青年會、外國婦人會等の諸集會のため使用せられたり。

▲●●●●●鵠沼夏期休養所　場所は相州鵠沼（藤澤電車鵠沼停留場より約十五分徒歩海岸まで約十五分）にて開場期日は七、八の兩月とし費用は室料一週一人分壹圓（但一日一泊金貳拾錢也）諸道具備付あれば食事は各自辨の規定なり。希望の諸姉は逗留時日等精しく書添へ申込ありたし、又寢具其他詳細は本會事務所につき直接問合せられなば好都合なり。

▲●●●●本年定期總會　東京基督教女子青年會大正五年定期總會は五月下旬開會の豫定にて目下準備中なり。

○横濱女子靑年會（大正四年度報告）　當支部は大正二年六月に開始せられ藤田（二宮）幹事及久野姉の後を受け大正三年九月よりミス、ベーカー主任幹事として赴任せられ四年四月其助手として伊藤菊子を依頼せり。

（一）現在會員數九十七名、內譯會員三十二名、維持會員四十八名、子供十七名。

（二）諸種の組（イ）聖書　每月第一第三土曜午後一時より城戸先生の新約聖書講義あり、組員十五名（出席平均九名）。（ロ）聖書　每木曜午後零時半よりミセス、ウォルトン。井上先生の舊約聖書講義あり組員八名（出席平均五名）。（ハ）子供英語　每土曜午後二時よりミス、ベーカー教授す生徒數二十三名（出席平均十七名）。（ニ）運動　每水曜正午より二時迄晴天には公園の芝生或は個人所有のテニスコートを借用して戶外運動をなす。雨天の時は、室內にて遊戲をなしミス、リー。ミス、レーガンこれを指導す。出席者十五名（平均八名）。（ホ）　タイプライター　目下練習生五名。（ヘ）　ピアノ　每月曜午後よりミセスダウキ（ミス、アズグド）教授さる出席者七名（平均四名）。（ト）日曜學校　日曜午後二時より會員成田姉主任となり他の會員二名と共に四十名內外の兒童を教ふ、其他每火曜及び木曜夕七時より英語の組、每月水兩日午後一時より初等英會話及西洋作法教授あり又五名以上の生徒ある時は料理、速記、簿記の組を設く何れの組にも加入隨意なり。

（三）集會　大正四年十一月より有志により讀書會開

かれ會員十二名あり、會員の意見に從ひ文學書を求め廻讀す、第一回に求めし書籍はファウスト、沙翁全集、アイバンホー、噫無情、ポンペイ最後の日、即興詩人、哲人何處にありや、文は人なり、源氏物語譯本等九册なり。クリスマス祝會、萬國基督教女子青年會祈禱會は本部よりの先生等の講演會等を開けり、又毎月第二土曜午後一時より會員の例會を開けり。

(四)働　感謝祭の折、共立女學校にて貧民救助の計劃ありしを以て當會にても多分の贈物をなせり、其他ベルギーへ腹卷及び靴下等を送れり、渡米婦人心得及桑港女子青年會案内二種の刷物を作りて婦人渡航者へ船中にて配布す、米國青年會へ紹介狀を認む其紹介狀を與へしもの十三名あり。

○同志社女學校青年會　私共の青年會にては今回音樂部の働きといたしまして小さい音樂團を組織いたしました、専ら神の道宣傳の一方便又は一機關となり適當なる場合に用ひられん事を目的といたして居ります。其音樂團の名はミリアムクワイヤーと敬愛する同志社三輪教授から賜はりました、御存じの通りミリアムは、信仰あつきモーゼの姉にあたり、モーゼの棄てられた時側に付添つて番をして居りました愛の深い婦人は此のミリアムでありました其他モーセがイスラエル人を引連れカナンの地に歸る途中に神より教へられし不思議なる業をして困難なる場所も無事に通過いたしました、かくの如き場合神を讃美する時常にミリアムは先づ鼓を採り彼等のリーダーとなつたと云ふ記事も出埃及記に出て居ります、かく歴史的信仰ある人の名を當クワイヤーの名稱とされた事は、實に榮ある事で御座います、大に奮つて名に違はざるやう神の道のために働き度いと思つて居ります。

●●●

▲音樂會　二月十九日午後二時より本校女子青年會の主催の下に青年會基本金募集のため音樂會を校内チャペルに於て催す、來會三百五十有餘にして豫期以上の盛會なりき、閉會後會場前にて會員の製作せ

る物品を販賣し頗る好成績なりき、役員始め會員一同は厚き祈りと熱心なる力を捧げたることとなるが、幸に經驗なき我等も豫期以上の盛會を與へられたるには滿腔の感謝に滿ち居る次第なり、今そのプログラムを左に掲げん。

一、開會の辭。二、合唱(讃美歌三十一) ミリアムクワイヤー。三獨唱(たゆたふ舟) 北村美代子。四、合唱(夜の調)ミリアムクワイヤー。五、ピアノ彈奏 長田たき子。六、二部合唱(春の夜の夢)ミリアムクワイヤー。七、獨唱(Consider the Lilis) 長谷川都子九、合唱(Last Night) ミリアムクワイヤー。休憩 十、ピアノミスサウター♀十一、獨唱 畑。十二、ヴアイオリン合奏 田中貞之助氏、藤田駒三郎氏。十三、獨唱 青木兒氏、十四、リーデングケレー氏、十五、口笛 コルテス氏。十 、獨唱 シイベリー氏。十七、ピアノ速彈 ミスターカーブ同夫人。十八、合唱 ミリアムクワイヤー。

○搜眞女學校青年會

大正四年二月より五年三月迄一ヶ年間の報告左の如し。

1現會員數 顧問二名、贊助員十名、正會員四十九名、準會員三十名。

2集會 本部主催例會五回、事務委員會九回、傳道部主催例會三回、共勵部主催例會三回、萬國學生祈禱會二回、送別會、選擧會、報告會、各一回。

3働 正會員十六ヶ所の日曜學校を致め、神奈川バプテスト敎會贊助、日曜禮拜準備員、音樂員唱歌隊、一少女の爲月謝及書籍代を出金せし事、白國同情會に寄附、當地の同窓生を主としたる集會。

4寄附 書籍、唱歌集、盆一枚。

5新事務委員は左の通り

會長	坂本元	副會長	小森谷鶴代
書記	布澤芳枝	會計	千葉千枝、穴水操
傳道部	岩崎喜代	共勵部	貴志員
慈善部	坂西志保	誘導部	松本光
書記	小森谷鶴代		

6傳道部主催集會 (一)三月四日講演『日本に於けるバプテスト敎會の現況』渡邊牧師。(二)六月十七日『基督敎を國體化せよ』高垣敎師。(三)十一月十一日『信仰上の實歷談』植山牧師。

7傳道部責任の組會 は日曜の夜にてＡＢの二組に分ちて集をなせしものなるが三月以降は之を共勵部

に讓ること丶せり。
8同木曜午後の別會　別會は一年級より專科に至る迄各級敎場に於てのみ集會し下級生は上級生之を指導す。集の主意は特別の場合にあらざる限り司會者の責任とせり、別會開會數十回。
9同特別集會　六月十七日求道者會、講師高垣敎師當日講演の後求道者の爲に特別の集を開きたり。六月二十四日信者集會、司會者高田輝代、當日別會の後信者のみ集會を開く主意は求道者の爲め祈禱及信者一個人の行爲に責任を持つこと。
10役員改選會の爲の祈禱會　二月二十四日、正會員にて選擧を行ひ其の際準會員のみ他の場所に於て集會をなし改選會上に神の祝福を祈れり。
11共勵部主催例會　五月十三日(司會者、穴水操)。六月三日(司會、志賀房)。「感化敎育上より觀たる親と子」と題し村岡師の講演あり。十月十四日（司會者、志賀房)。
12共勵部組會　(毎日曜午後六時半より開會)（イ）大正四年二月七日より同三月二十八日迄に聖書研究會三回、感話會三回、讃美會祈禱會各一回。(ロ)聖書研究會(同四月より十二月迄に十五回)研究科目は(專科)ヨハネ傳、ジョンウエスレー傳。(五年)イザヤピリピ。(四年)ヨハネ傳。(三年)テモスコリント。(二年)天路歷程。(一年)人物、ヨナ、ルツ、エステル。正會員有志にて開會す。(ハ)一致會同四月より五年二月二十七日迄三回。外に組會四回。
13慈善部　(一)廢物利用によりて資力を得んとし、(イ)當校寄宿舍生諸子の拔毛を集めて賣却すること(ロ)紙屑を賣ること。(ハ)ライオン齒磨粉空袋を集めること。(二)會員集りて働きし事三回、(イ)六月七日午後一時より寄宿舍自習室に於て寄附せられし西洋雜誌より繪を切り拔き或は西洋服を解き或は反古を整理する等、(ロ)十二月二十五日切り拔きし繪を利用し寫眞帳を作り表紙に繪をかき中に聖句讃美の節を記して小冊を作ることは病床にある者を慰むるため、(ハ)大正五年一月十九日午後校舍六號室

に於て其寫眞帳三十餘冊を作り上げ既に二冊は赤坂病院入院中なる多田正會員並に一患者に送れり、(三)蒲團一枚市內高島町に住する貧しき老夫婦に送ることゝなり一月二十五日千賀部長持參す、老婦掌を合して感謝せりと。

14誘導部にて得たる入會者三十五名。

15會計　大正三年度收入、廿五圓卅二錢、支出、廿三圓七十三錢殘金一圓九十五錢。大正四年度收入、六十二圓四十八錢、支出、五十一圓〇二錢五厘、殘金十一圓四十五錢五厘。販賣部總賣高、十五圓四十三錢五厘、支出、十一圓卅一錢、殘金、五圓廿一錢五厘。

○好友園の近況

保育證書授與式　三月二十五日午前十時より保育證書授與式を執行いたしました其次第は一同着席の上、祈禱、君が代、歌(卒業生一同)がありまして、又春の光、よろこび祝へや、種蒔の歌等を歌ひ、次に御話(大槻姉)があつて、又歌(武士、指の歌)マーチがあり、それから保育證書授與、卒業生へのお話につゞいて卒業生一同の感謝の歌、それから高木姉が父兄への話をなさいまして、遊戯に移り、(一、鳥の巢。二、武士。三、ダンシング。四、スキッピング。五、箸遊び)それを終つて撮影の上散會いたしました。▲新入園兒　四月六日に開園して二十名の新入生を得ました。現在の園兒は凡て四十五人居ります、其等はどんな家庭の子供かと申しますと職工、桶屋、燒芋屋、魚商、青物商等からで御座います、從つて箇樣に忙がしい家庭ですから其日の生活に追はれて親達は小供の敎育などには心を用ひて居る暇がありません、それ故恰度野放しの犬の樣に自由が過ぎて亂暴に趨り、言葉の野卑なのには實に驚き入ります、けれども家庭の有樣を觀察する時によく子供の性質を理解すると同時に子供に對して非常に同情を持つ事が出來ます、全く子供の權利或は心身共に子供の成長といふ事が家庭に於て無視されて居るのです、實に子供にとつて不幸な事ではありませんか、私共は斯樣な子供を當園に迎へると共に當園で斯る子供を發達させる處は出來る丈發達させ、又制する所は或程度まで制して自由と制限の調和をよく計つて敎育してやり度思つて

居ります、私共の只今用ひて居ります保育案は子供は家庭と密接の關係を有して居るので第一家族といふ事に就いて敎へ、又此春先花の咲き亂れて居る時花について敎へ花の中の見えざる生命即ち神について敎へて居ります、從つて歌、話、遊戯、恩物、手藝凡て此保育案の元に敎へて居ます、そして新入生も元氣よく毎日にこ〳〵して通つて參ります。（世良田主任報告）

○宮城女學校青年會　長い間希望をもて待て居りました當青年會の慈善音樂會は、去る三月十一日土曜日午後七時より本校の講堂に於て開かれました。試驗前で隨分困難もあり、殊に三月とは云へ仙臺では未だ寒い時節なのでございます。けれども會長は一切を犧牲にしてこの事業のためお働き下さいますので會員も勵まされてお助け申す事が出來ました。而して十人の役員は、二週間も先より入場劵を賣りにと如何なる日も厭はず所々方々へ出かけました。愈開かれると云ふ其の週は學校での授業もいつになく長く感ぜられ。そして鐘が鳴ればすぐ敎室より飛出して道具を室へ放つたまゝ、二人連で外出して、知るも知らぬも殘す事なくお訪ねして同情を求めました。中には大變優しくて容易すくお買ひ下さる方もございましたが、かゝるお方はまあ十人に一人位で、大抵は「家では音樂には趣味が御座いませんから」とか、又或時は此の邊なら一等劵二枚位は大丈夫と勇んで參りますと、どうでせう長時間待たせた上「家では耶蘇でありませんから參りません若し參る時は入場劵など頂かなくもあがります」など斷られて、もう他の家を訪ぬる勇氣は無くなつてしまふことも度々でございました。そして買物に參りましては其店の人に、敎會に參りましては男女の別なく、お願ひ申上げたので御座います。かくして步き廻つても賣上は僅か五枚位に過ぎませんでした。或日の事でした、朝より大風でおまけに午後になると大雨になりましたので今日は止さうと相談しましたが、學校より歸りますれば何にも仕事なしで居る

のはいやになり、皆で身輕に裝ふて今度は少し淋しさうな町へと出掛けました。大雨降で御座いましたので思ふ樣に歩くことも出來ませんでした。その中に急に風の方向が變つてキューと來た風の勢で傘は見る／＼中に朝顏となつてしまつて、何とも詮方なく惜しくも傘は其まゝ捨てゝ、恰もぬれつばめの樣な姿でかけ出しましたが、こんな日に出かけて何枚賣れたといふとお恥づかしいことですが只の四枚でした、併しかやうにして毎日出掛ましたので會の前の日までには殘す所なく賣り盡してしまひました。

偖愈今日と云ふ日は大變に寒くて雪がチラ／＼降てゐましたが、私共は寒さに負けず朝より一生懸命働きました。その中にもう四時頃になりますと來會者はどし／＼と見えまして、案内者は目が廻る樣でございました。凡そ一時間ばかりの中に廣き講堂も多數の人に埋められてしまひました。中には札を買ふ折なく五六人連でお出になつた方もありましたが斯に殘れる札は一枚もなくて、お斷りしたのが幾らあつたか知れませんでしたのは本當に御氣の毒でした。

やがて片桐會長の開會の辭によりて、この會の目的主義を述べられてから引續き開かれました。始めより終りに至るまで聽衆者の感心を買はぬものはありませんでした、出演者は多くは西洋の紳士淑女で、日本人は僅か六人でした、日本の樂器は一つもなく、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ラッパなどで、又多くの方の獨唱、合唱もありました。或は賑かなるもの、或はしんみりしたもの、とり／＼でありました。中にも聽衆者の最も耳を喜ばせたのはハンセン先生のピアノ獨彈、シャフナー夫人のつばめの獨唱でありました。他にも感心すべきものがありましたが、アンケニー氏の喇叭は邦人には別て珍らしかつた樣に思はれました。此の會の終りましたのは午後十時半でありました。最後のオルガン獨奏は誠に靜かに人々に眞に今晩の全體の音樂趣味を味はせました。閉會の辭が終りましても人々はなかな

かに退かふともせず暫らくの間は拍手が盛で講堂内は中々の騒でした。

こゝに長く求めてゐました青年會の一働きも多くの御方々の厚き御同情によりまして大成功を致しました事は、役員始め一同深く感謝して居ります。收入は諸雜費を差引金百參拾圓六拾八錢の多きに達しました。

消息

●ミス、ラドホード（新嘉坡女子青年會幹事）歸國の途次本部に立寄られ四月十六日安藤坂寄宿舍に於て「聖靈」につき有益なる感話ありたり。

●ミス、ブラウン（新嘉坡女子青年會幹事）ミス、ラドホードと共に本部に立寄られ三日間滯在の後歸國。

●高杉かなを 廣島縣福山高等女學校に在職されしが東京三輪田高等女學校へ轉任。

●大高りう子 本郷教會に於て受洗。

●州脇かよ子 麹町教會に於て受洗。

●陶山よね子 女子英學塾卒業岡山縣高梁順正高等女學校へ赴任。

●長井きみえ 女子英學塾卒業山口縣立徳基女學校へ赴任。

●齋藤園子 女子英學塾へ入學。

●大谷久子 東京女子青年會事務員を辭し女子英學塾へ入學。

●小篠端子 女子學院を卒業され東京女子青年會事務員に就任。

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也

三好 春子（大正五ノ六―六ノ五） 龜高ヨシヱ（大正五ノ三―六ノ二）
和田 周子（大正四ノ五―五ノ四） 京野きん子（同 上）
國分 峰子（同 上） 坂出 愛子（同 上）
伊藤ちせ子（同 上） 疋田たつ子（同 上）
鈴木須愛子（同 上）

○雜誌『女子青年界』代金領收

金七拾錢也

大江 政衛（大正五ノ一―十二） 大塚 よね（大正四ノ五―五ノ四）
杉森 ウメ（大正四ノ一―十二） 富士きよの（大正五ノ三―六ノ二）
井上 静子（大正五ノ一―十二） 荒川 直子（大正五ノ三―六ノ二）
三好 待子（大正五ノ一―十二） 兒玉 孝子（大正五ノ四―六ノ三）

金七拾五錢也 中村玉子（大正五ノ二月分十部代）
金參圓九拾貳錢也 共立女學校（大正五ノ三月分五十六部代）
金四拾貳錢也 女子英學塾（大正五ノ一―六冊代）

一「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共	内地	海外
一部	金七錢	金拾壹錢
一年前金	金七拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又ハ回數により割引有

大正五年四月廿七日印刷納本
大正五年五月一日發行

發行所 神田區北神保町十四番地 日本基督教女子青年會
發行兼編輯人 神田區北神保町十四番地 河井道子
印刷人 芝區櫻田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 芝區櫻田和泉町七番地 三威舍

NATIONAL COMMITTEE

Headquarters: 14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo.

Telephones: Residence, Bancho 4563; Office, Honkyoku 598.

Cable and telegraph address, Emissarius, Tokyo.

Furikae chokin, Tokyo 23723.

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inoue, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Ume Tsuda
Miss A. B. West
Miss Uta Suzuki
Miss Kita Hasegawa
Miss Sarah Ellis
Miss Chiyo Yamada
Mrs. E. W. Clement
Miss Ai Hoshino
Miss Jun Kido
Miss Matsu Okonogi
Mrs. Taki Shidachi

NON-RESIDENT MEMBERS

Madame Asa Hirooka, Osaka
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Susan Searle, Kobe

SECRETARIES

Miss Michi Kawai, National
Miss Margaret Matthew, National
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Mary Page, General, Tokyo
Miss Taka Kato, General, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIII | MAY, 1916 | NUMBER 5

In the fall of 1914 when it was feared that the war was going to create even greater havoc in Yokohama business circles than has actually happened, there was serious talk of closing the rooms of the YWCA in Yamashitacho, but the girls who made the most use of them pleaded for their maintenance, and they were continued as before, except that the foreign secretary took up her residence there. This made possible the use of the reception room for the young women at noon, and for Bible and other classes. While this crowded all concerned, the membership grew throughout the year. At present the membership is 97 of whom 32 are young women, mostly in business, 48 supporting members and 17 children.

The Association offers a reading, lunch and rest room to any young women, especially those who are working in offices and stores, and several come every noon, bringing their lunches. Classes have been conducted as follows: two Bible Classes enrolling 23; English classes in conversation, two reading classes and a children's class, total enrollment 34; foreign etiquette class, typewriting, piano, machine sewing, enrolling altogether 18. There is a Sunday School of about forty children, some of the members giving their services as teachers. The children are all from the near neighborhood and from families of jinrikisha men and janitors. This year a teacher succeeded in saving one bright little girl of about 14 from being sold into a life of shame. She is now in a mission school, where she will soon learn enough to be able to support herself and help the old grand parents, who really did not want to sell her, but got into debt and saw no other way out. There is another little girl of eleven, who will be in danger in another year, and it costs so little to keep a girl in school here that we hope some one will be found to help her also. Fun in the physical department is not yet very popular in Japan but we have had a few out-of-door hours in the City Park and on an unused tennis court this fall. Twelve of the girls have clubbed together to get a library, paying a small sum a month out of their earnings and buying a few good books, both translations and Japanese classics, which after having passed around among the number will go into the permanent library.

Thirteen young women have been given letters to Associations and individuals in the United States and Honolulu, and helped in other ways. Pamphlets with suggestions for such travelers have been distributed to a good many girls traveling alone on the steamers. It is estimated that there are between one and two hundred women sailing each month. We are waiting for Miss Kawai's return from America to begin what we hope will be a really effective work in this direction. In view of this work the patronesses who are most interested in the Association sold little flags in commemoration of the Coronation and made quite a good sum. Of more value than the money will be the increased interest in the Association, as there were several hundred people associated with the project, which was for some popular charities as well as the YWCA. Buddhist as well as Christian women joined together and it is doubtless the first time that Yokohama women ever entered so generally into such a purely philanthropic undertaking.

The young women who use the Association are of different groups, first and most largely those in offices and stores, then students, graduates of schools who are at home and have leisure, a few nurses and some girls from a near-by factory. In November fifty-one different girls exclusive of children used the rooms. If we can help even a few of these girls to find the best Friend we will count our work and waiting worth while.

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信賴せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を贊助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舎　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舎を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記録書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）
エ、ビ、ウエスト（東京）
鈴木歌子（東京）
小此木松子（東京）
長谷川喜多子（東京）
星野愛子（東）
サラ、エリス（東京）
イ、クレメント（東京）
山田千代子（横濱）
藤田貞子（横濱）
城戸順子（横濱）
廣岡淺子（大阪）
ケー、トリストラム（大阪）
エム、エフ、デントン（京都）
佐伯小糸（京都）
松田道子（京都）
エス、ソール（神戸）
上代淑子（岡山）

役員

總幹事（本部）　河井道子
同（同）　エム、エル、マシウ
書記（同）　アール、レーガン
總幹事（東京）　エム、ペーチ
同（同）　加藤高子
特志幹事（同）　イー、アル、カウフマン
幹事（横濱）　エム、ベーカー
事務員（本部）　松宮のぶ子
事務員（東京）　湯川きみの
事務員（横濱）　小篠端子
旅行者の友係
幼稚園主任保姆
幼稚園助手
第一寄宿舎監
第二寄宿舎監
第三寄宿舎監
宿泊所取締

鈴木貞子
林ふさ
松崎滿喜
世良田勇子
古谷たまき
門倉ふじ
大西絹子
有田玉子
ミス、ダルトン

東京市神田區北神保町十一番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾參卷第五號

大正五年四月廿八日印刷納本大正五年五月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

メチニコフ博士唱道の長壽說に基く乳酸菌製劑

ラクトスターゼ LACTOSTASE

用量＝一回〇・三乃至〇・四瓦宛（錠劑は一回二個宛）一日三回食後直に服用、小兒は約半量とす

定價＝內服用粉末拾四瓦入金八拾錢、廿八瓦入金壹圓五拾錢、同錠劑五拾錠入金五拾錢、凝乳製造用ブイヨン六瓦金拾貳錢、

ラクトスターゼは腸內の腐敗醗酵を防ぎ腸內に發生する各種の病原菌の繁殖を阻止し、且之を死滅せしむるを以て凡ての腸胃病に卓効あり新陳代謝を順調にし便通を整理し老衰を豫防し能く多數疾病の禍原を除く。

適應症＝消化不良、腸加答兒、腸結核、盲腸炎、下痢、常習便秘、皮膚病、貧血、早老、腎、肝諸症殊に小兒の消化器病に適し小兒の綠便及便秘には無害有効のものなり

本劑は凝乳飲用と同一の効果を有す

東京室町　三共株式會社

帝大教授鈴木博士發見 脚氣特効營養新劑（三共株式會社製造）

オリザニン ORYZANIN

本劑は鈴木博士が深邃なる研究を遂げ、發見せられたるものにして、幾多の動物試驗に由り脚氣に特効あるを知られたる新營養劑なり。越幾斯劑及液劑の二種あり。全國各地有名藥店に於て取次販賣す。

東京室町　三共株式會社